平成20年度
障害者雇用
職場改善好事例
優秀賞

ソニー・太陽株式会社（大分県日出町）

コミュニケーション環境を整備し、キャリアアップを図る

▲筆談での確認作業を念入りに行う。

▲筆談と手話を交えて作業を指示。

▲細心の注意を払って精密機械を操作。

▲お昼休みに手話でコミュニケーション。

障害の有無を問わない合同研修、「聴覚障がい者受入マニュアル」の作成などにより、能力を発揮できる環境を整備

事業所の概要と障害者雇用の経緯

昭和53年にソニー株式会社と社会福祉法人太陽の家との共同出資により設立され、昭和56年にソニー株式会社の特例子会社に認定された。当初はソニー株式会社の音響機器アクセサリーの製造をしていたが、現在はマイクロホンの設計からデバイス、組立、修理・メンテナンス等のサービスまで一貫生産を行うソニー国内唯一のマイクロホン基幹工場として位置づけられている。その他、メモリースティック等デジタル関連製品の製造やソニー製品の部品データベース構築・関連業務も行っている。

障害者は製造職・事務職問わず、各部署で活躍している。

業種及び主な事業内容

マイクロホン、ヘッドホン、メモリースティック、ビデオカメラ・デジタルカメラ周辺機器の製造等。

雇用聴覚障害者数

26名（うち重度19名）

主な職務内容：
◎技術部門では、デジタル周辺機器の治具設計
◎その他、購買業務・経理・システム等

取り組みの経緯

コミュニケーションにおける平等な環境が構築されたことでそれぞれの特性が活かせる職場となった

▲手話の利用で他チームとの連携もスムーズに。

聴覚障害者とその他の従業員双方でコミュニケーションの問題に直面していた。聴覚障害者側は、自分たちから発信する情報が伝わらないと感じていた。健聴者側も同様に、聴覚障害者に情報が伝わりにくいと感じていた。このような状況から、聴覚障害者は様々な場面で意思伝達の難しさを感じ、個性を活かすことが困難であった。また、入手できる情報の少なさからコミュニケーション上のトラブルが生じ、モチベーションも上がらなかった。

そこで、新人研修から筆談で指導する等、情報保障に重点を置き、社内全部門において最大限の能力を発揮できるようにサポートした。

また、聴覚障害者に対する対応は配属された部署に委ねていたが、受入部署の対応に差を無くすため「聴覚障がい者受入マニュアル」を作成した。

さらに、コミュニケーション面の支援強化として、朝礼やミーティング、研修等の際には、内容が迅速かつ的確に伝わるようにするため、要約筆記を活用すると共に、社内に手話通訳ができる者を養成した。

コミュニケーションにおける平等な環境が構築されたことで、それぞれの特性が活かせる職場となり、リーダー、係長へも登用された。そして誰もが平等にチャンスを与えられることが理解され、聴覚障害者、健聴者双方の意識に変化をもたらした。

▲精密部品の製造作業。

みんなで改善。ここを工夫。

	改善前の状況	改善後の効果	
1 新人研修	聴覚障害者が含まれる場合でも、特別な配慮をせずに研修をしていた。	障害者、健常者全員一緒に研修を実施し、聴覚障害者には細かく筆談で指導。新人全員が一定のコミュニケーション能力や技術を習得できるようになった。	
2 聴覚障害者の受入	受入ノウハウは、配属された部署の所属長が保有している経験や技量に委ねられていた。	受入マニュアルを作成したことで、部署ごとの受入の対応に差がなくなった。	注目の改善点 1
3 社外での研修	聴覚障害者は社外研修への参加は不可能だと判断し、参加する機会を設けていなかった。	要約筆記者と共に参加することにした結果、マネージャークラスが受講する内容の研修にも受講が可能となり、聴覚障害者の職域拡大につながっている。	
4 手話通訳者の養成	筆談で十分だと判断し、積極的な養成を行っていなかった。	手話ができる社員がいると聴覚障害者は安心するということがわかり、3名の手話通訳者を養成中。コミュニケーション手段が増え、社内が活性化された。	注目の改善点 2
5 要約筆記の活用	朝礼や部署のミーティングでは、資料をポインターで示しながら、隣の人がメモ用紙に結論だけを書いていた。	IPtalk（聴覚障害者とのコミュニケーションのための要約筆記用ソフト）とPSP®（プレイステーション・ポータブル）を使用することで、朝礼やミーティング、研修等の内容が迅速かつ的確に伝わるようになった。	注目の改善点 3
6 職域の拡大	経理や社内システム（ITインフラ）構築業務など専門職への登用はなかなか難しかった。	要約筆記や手話通訳者により社外の研修にも積極的に参加できるようになり、聴覚障害者のスキルが向上した。	
7 作業の視覚化	マイクロホンの製造において、音をチェックしなければならない最終的なテスト業務は任せることができなかった。	現在試作段階ではあるが、音を視覚表現することで聴覚障害者が音の検査を行える取り組みを行い、さらなる職域拡大を図っている。	

改善策紹介

障害を感じさせない職場は障害者の立場に立って初めて完成される

▲新入社員研修。

注目の改善点1 「聴覚障がい者受入マニュアル」の作成

効果 これまで部署によって違っていた受入対応に差がなくなり、聴覚障害者の職場定着率が飛躍的にアップした。

聴覚障害者の指導に関しては配属部署に委ねられており、研修後いざ現場に配属となると「現場のリーダーがわかってくれない」などという声がよく聞かれた。そこで会社全体を教育するために作成したのが「聴覚障がい者受入マニュアル」である。作成に当たり聴覚障害者、及び聴覚障害者と共に働いていた健聴者に念入りにヒアリングを行った。働いていく上での不安や実際の苦労談を一人ひとりから聞き取り、長年かけて最近ようやく完成した。このマニュアルをまとめることで、健聴者の聴覚障害者に対する理解が深まった。同時に、聴覚障害者側も健聴者が歩み寄ってきていると感じたことで、職場に一体感が生まれ、挨拶も手話で交わすなど、活気が出てきた。

▲作業中も細かな打ち合わせは欠かさない。

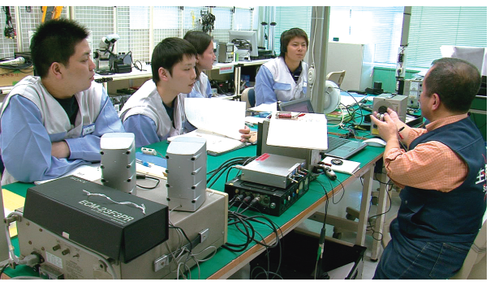
◀情報保障のノウハウもマニュアル化。

注目の改善点2 手話通訳者の養成

効果 コミュニケーション手段が増えたことで、聴覚障害者との意見交換がさらに活発化。活躍の場も広がっている。

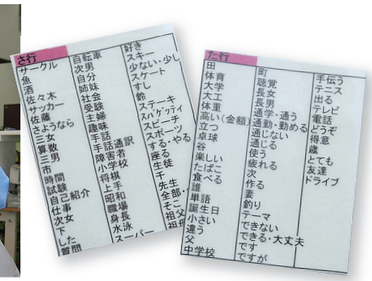
元々当社には2名の手話通訳者養成講師がおり、その講師の指導のもと、10名ほどが手話サークルとして活動している。そのサークルを通して手話の基礎を学んだ人の中から3名を選定し、手話通訳者を養成。毎週水曜日の就業後2時間ほど、当社の業務に関する専門的な言葉を学習している。3名に関しては手話の資格取得も視野に入れているが、まずは手話で通訳ができることを目標に日々勉強中である。なお、頻出用語は手話用語カードに記載してあり、確認しやすいよう工夫されている。

手話で会話ができると、聴覚障害者はとてもホッとするという。手話通訳とは言わないまでも、挨拶程度は手話でできるようにするなど、全社員に対しても手話の重要性についてアナウンスをしている。



▲社内研修の様子。

▲職場は和やかな雰囲気が漂う。



▲頻出用語は手話用語カードに記載。

▲テレビを設置して視覚的に情報をアナウンス。

▲フリッカーランプを全部署に設置。

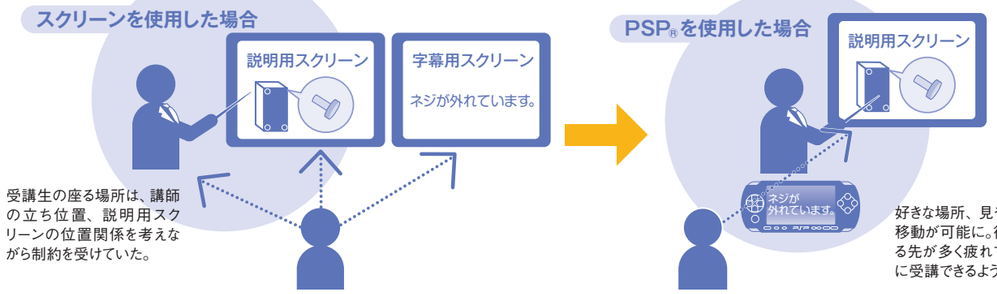
注目の改善点3 要約筆記の活用

効果 これまで不可能だと思われていた社外研修等へも、聴覚障害者が要約筆記者と共に受講が可能となった。聴覚障害者のスキルアップに大いに役立っている。

要約筆記は、主に、会議や研修、講演会などで、話し手の意図をすばやく要約して書き、正確に伝えるコミュニケーション方法である。

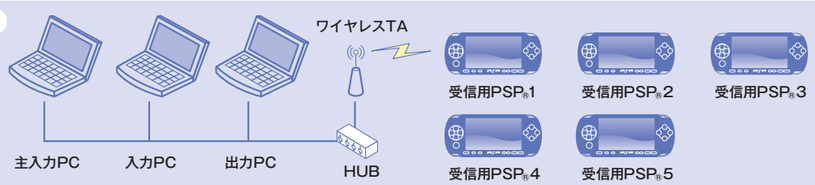
当社では、部署の会議ではタイピングに慣れた者が要約筆記を行っている。朝礼や研修では、要約筆記したものをPSP®（無線LAN内蔵端末）へ送信している。従来は朝礼や研修では要約筆記したものをスクリーンに転写していたため、聴覚障害者は講師の立ち位置や説明用スクリーンの位置関係を考えながら座らなければならなかったが、PSP®は自由に持ち運びができるため好きな場所へ座ることができるようになった。また、スクリーンと比較して疲れにくく、文字が見やすいという利点がある。

▲会議時の要約筆記の様子。



PSP®を使用した要約筆記

PC 要約筆記ツールで入力された文章は、IPtalk Broadcaster でリアルタイムに HTML 化。
無線 LAN アクセスポイントと PSP®（無線 LAN 内蔵端末）を組み合わせると、配線に関係なく自由に動ける。



INTERVIEW

代表の声

代表取締役社長
長田 博行さん

会社設立時より多くの障害者を雇用してきましたが、離職率が一番高いのは聴覚障害者でした。一番の原因はやはりコミュニケーションのズレ。きちんと説明したつもりでも正確に伝わっていないなど、トラブルも多かったのです。そこで現在では PSP® を使った要約筆記を取り入れ、離職率も激減、聴覚障害者雇用の仕組みが整いつつあります。しかし、まだまだ細かいところで次の課題が残っているのも現状です。聴覚障害者の中からも会社の中核をなす人材が出るよう、さらなる環境づくりに励みたいと考えています。

職場リポート

従業員の声

製品の受入から出荷までの事務全般担当
二ノ宮 志乃さん

就職活動中、見学に来た時に、単調な仕事だけではなくて様々なことを体験させてもらえる会社だと感じて、ここで働こうと決めました。入社した当初は筆談での会話がほとんどで、一歩遅れてやっと理解できるためタイムラグがあるのが悩みでした。でも今は要約筆記をしてくださるので、リアルタイムにコミュニケーションを取れるのでとても助かっています。おかげで仕事も円滑に進むようになったし、やりがいのある仕事も任されるようになってきました。これからも人との出会いを大切にして、人の役に立てるよう頑張りたいです。